

## 平成26年度離島漁業再生支援交付金による取組概要（大入島）

### 1. 集落協定の概要

都道府県名：大分県

市町村名：佐伯市

島名：大入島

協定締結集落名：大入島漁業集落

交付金額：8,432千円

協定参加世帯数：62世帯（うち漁業世帯数62世帯）

（参考）集落漁業者平均所得：1,649,821円（平成25年）

### 2. 協定締結の経緯

漁業が基幹産業である大入島においては、漁船漁業や養殖業等様々な漁業種類が営まれている。しかしながら、近年、漁業者の減少や高齢化が進んでおり、このまま推移すれば島の漁業は一層衰退し、集落の担う多面的機能が失われていく懸念がある。

そこで、漁業の基盤となる漁場の保全や利用に関する話し合いを通じて集落機能を再編し、漁場の合理的な利用や新技術・漁法の導入等に取り組む環境を整えるとともに、漁場環境の保全活動を継続的に実施することで漁業の再生を図るため、離島漁業再生支援交付金による漁業再生活動に取り組むこととした。

### 3. 取組の内容

#### ①漁場の生産力の向上に関する取組状況

海底清掃等により漁場環境の保全に努めた。

活動内容	実施日	数量	経費（円）
海底清掃	8月4日～8月7日	参加漁船 44隻	2,453,369
底質改良材の散布	9月29日、30日	底質改良材 (クリアウォーター) 5,100kg	1,032,750
赤潮調査	5月28日、6月6日、 6月16日、7月3日、 7月22日、8月13日、 9月2日、平成27年2月5日	8回	90,000
採水器購入	12月25日	1個	163,296

種苗放流等により資源の維持、増大を図った。

活動内容	実施日	数量	経費（円）	
貝殻魚礁設置	11月4日、11月7日	32基	1,030,080	
種苗放流	放流数	サイズ（mm）	経費（円）	
	アワビ	11,501個	30	950,775
	サザエ	30,000個	30	1,088,880
	カサゴ	8,000尾	56	467,000
計			2,506,655	

## ②集落の創意工夫を活かした新たな取組状況

活ハモの流通改善を図るため、活かし箱出荷に取り組んだ。

また、小型底曳き網漁によるハモ漁の先進地である、大分県杵築市の視察を行った。

## 4. 取組の成果

①海底清掃(耕耘)を実施することにより、海底のゴミが除去されるとともに、硬化しつつあった底質が軟化し、漁場環境の改善を図ることができた。これにより、魚介類幼稚仔の生息域の拡大、特にクルマエビの漁獲量増大が期待されている。



小型底引網漁船による海底清掃(H26.8.4)

②種苗放流においては、アワビ等商品価値が高くかつ定着性の魚種を放流したことにより、数年後の水揚金額の増大が期待されている。また、前年度に続き赤潮被害を受けた海域にサザエの種苗を放流することにより水産資源回復に期待をしている。



クロアワビ放流(H27.1.14)

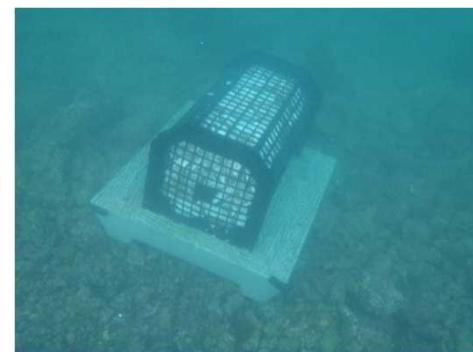


サザエ放流(H26.11.5)



カサゴ放流(H26.5.15)

③産卵場・育成場の整備を目的に貝殻魚礁の設置をおこなった。近年減少傾向にあるナマコなどの資源回復を促すことを期待している。

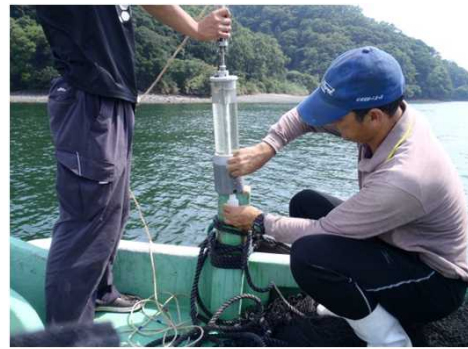


貝殻魚礁設置(H26.11.4)

④養殖漁場の水質・底質の改善を図ることを目的として、底質改良剤の散布をおこなった。これにより、近年多くの漁業被害をもたらしている赤潮の抑制等、漁場の環境改善効果があるのではないかと考えられている。また、赤潮被害を最小限に抑えるため、赤潮調査を実施し漁業者へ注意を促した。



クリアウォーター散布(H26.9.29)



赤潮調査(年8回実施)

⑤活かし箱等を活用したハモの流通改善に取り組むことにより、活ハモの付加価値向上を図ることができた。



ハモ活かし箱



活かし箱による出荷

⑥小型底曳き網漁によるハモ漁の先進地である大分県杵築市を訪問し、その漁法や使用する漁網などの視察を行った。



先進地視察(H26.8.28)